

平成6年度限定指導品種「ゆきひかり」、「むつほまれ」、「コイヒメ」、「ヤマウタ」

農試 技術部・県北分場

1 背景とねらい

平成5年の稲作は、生育初期から低温・日照不足が続き、出穂遅延と障害不稔が多発し、作柄は昭和55年（作況指数岩手県平均60）を大きく下回り、岩手県平均の作況指数は「30」の著しい不良となった。

そのため、採種圃等において確保できる種子量は、当初の生産計画を大幅に下回り、特に極早生種の「いわて26」クラスのひとつと早生種の「いわて21」、「たかねみのり」クラスの約3割は、北海道と他県産の同熟期の代替品種でまかなわなければならない状況となった。

そこで、代替品種の品種特性を本県での栽培事例（水稻奨励品種決定現地調査成績等）を中心にとりまとめたので、普及指導上の参考に供する。

2 技術内容

各品種の特性概要

品種名	早中晩	育成地	来歴	品質	食味
ゆきひかり	極早生	北海道立中央農試	北海230号/巴まさり//空育99号	中中	中上
むつほまれ	早の生中	青森農試	トドロキワセ/ふ系104号//藤329	上下	中上
コイヒメ	早の生中	青森農試藤坂支場	コシヒカリ/ふ系70号//ふ系104号	中上	中上
ヤマウタ	早の生中	青森農試藤坂支場	び系108号/アキヒカリ//ふ系127号	上下	中上

各品種の特性概要（つづき）

品種名	諸抵抗性				概評	
	葉いもち	穂いもち	耐冷性	耐倒伏性	優 点	欠 点
ゆきひかり	中	中	強	中	耐冷性強	倒伏に弱い いもち耐病性中
むつほまれ	やや強	やや強	中	強	良質、多収	耐冷性中
コイヒメ	中	いもち弱～中	強	強	耐冷性強	いもち耐病性劣る 下葉枯いもち多い
ヤマウタ	いもち強～強	やや強	やや強	強	良質、多収	初期生育緩慢

3 指導上の留意事項

「ゆきひかり」

- 1) 6、7月の高温で出穂期が早まり生育量が不十分のまま出穂することがあるので、適地以外での栽培は行わない。
- 2) 草丈は短めであるが耐倒伏性が劣るので施肥は基肥を重点とし、長草化をねらった追肥は避ける。
- 3) いもち病抵抗性が不十分であるので、発病に注意し適期防除に努める。
- 4) 出穂・成熟期が「いわて26」よりも早く、刈遅れにより品質が低下するので、適期刈取を心がける。

「むつほまれ」

- 1) 苗丈は「たかねみのり」並～やや長く高温条件で徒長しやすい傾向があるため、温度管理に十分注意し、健苗の育成に努める。
- 2) 施肥量は「たかねみのり」並とする。生育期間を通じて葉色が淡く、特に幼穂形成期前にこの傾向が顕著になるので、多肥条件にならないように注意する。
- 3) 障害型耐冷性は「たかねみのり」より弱いので、幼穂形成期以降の低温時には深水灌漑による幼穂の保護に努める。
- 4) いもち病抵抗性は葉いもち・穂いもちともに「たかねみのり」より弱いので、適期防除に努める。

「コイヒメ」

- 1) いもち耐病性が「たかねみのり」より弱く、現地試験でも発病が散見されているので、防除基準に従い、適期防除を徹底する。
- 2) 稈質は「たかねみのり」並であるので、窒素施肥量は「たかねみのり」並とする。

「ヤマウタ」

- 1) 短稈で強稈であるが品質・食味を低下させないため、多肥栽培は避け、施肥量は「たかねみのり」並とする。
- 2) 初期生育が緩慢なので健苗育成を心がけ、初期生育の促進を図る。
- 3) いもち耐病性が「たかねみのり」よりやや劣るので、適期防除に努める。
- 4) 障害型耐冷性は「たかねみのり」よりやや劣るので、幼穂形成期以降の低温時には深水による幼穂の保護に努める。
- 5) 登熟が良いので、刈遅れによる品質低下に注意する。

4 試験成績概要 省略